

司式 熊田雄二牧師

前 奏

奏楽 門脇陽子姉妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 1:1 われら主をたたえまし

我ら主をたたえまし きよき御名あがめばや 来る日ごとほめうたわん
 神にまし 王にます 主のみいつたぐいなし アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 46:1 主は命を与えませり

主は命を与えませり 主は血潮を流しませり

その死によりてぞ我は生きぬ 我なにをなして 主にむくいし アーメン

共同の祈禱 祈禱書18 聖霊降臨節第一主日 ペンテコステ

聖なる神さま、あなたを讃えます。主イエスの約束にしたがって、聖霊が使徒たちの上に降り、新しい時代の教会が生まれました。今も聖霊のお働きにより、わたしたちを信仰に燃えるようにし、御言葉により忠実な弟子として整え、わたしたちが、全ての国にキリストを宣べ伝えることができるように、力を満たしてください感謝します。(使徒2、ルカ24、「聖霊」三)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 退職教師住宅費援助 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書7章11～17節 (新約聖書115頁)

説教・祈禱 「大預言者現る」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 46:23 主は御父のもとを離れ

2 主は御父のもとを離れ わびしき世に住みたまえり

かくも我がために栄を捨つ 我は主のために何を捨てし

3 主は赦しと慈しみと救いをもて くだりませり

豊けき賜物身にぞあまる ただ身とたまを献げまつらん アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 69 父の御神に・御子に・聖き御霊に

昔ながらの御栄えあれや ときわにアーメン、アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老 (司会・受付 次週: 門脇陽子長老)

本日 受付 1階: 藤井牧子執事 2階: 藤原宏章執事 / 動画: 門脇光生 録音: 大日南信也執事

次週 受付 1階: 長尾牧執事 2階: 佐藤紀子執事 / 動画: 森川莞太 録音: 大日南悠

I この話、どこかで読んだような・・・

それは旧約聖書で、神の奇跡的なわざを行なう預言者の話です。エリヤ、エリシャの物語です。

列王記上17：17-24

「その後、この家の女主人である彼女の息子が病気にかかった。病状は非常に重く、ついに息を引き取った。彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたは私にどんなかわりがあるのでしょうか。あなたは私に罪を思い起こさせ、息子を死なせるために来られたのですか。」 エリヤは、「あなたの息子をよこしなさい」と言って、彼女のふところから息子を受け取り、自分のいる階上の部屋に抱いて行って寝台に寝かせた。彼は主に向かって祈った。「主よ、わが神よ、あなたは、私が身を寄せているこのやもめにさえ災いをもたらし、その息子の命をお取りになるのですか。彼は子供の上に三度身を重ねてから、また主に向かって祈った。「主よ、わが神よ、この子の命を元に戻してください。」主は、エリヤの声に耳を傾け、その子の命を元にお返しになった。子供は生き返った。エリヤはその子を持って家の階上の部屋から降りて来て、母親に渡し、「見なさい。あなたの息子は生きています」と言った。女はエリヤに言った。「今わたしは分かりました。あなたはまことに神の人です。あなたの口にある主の言葉は真実です。」

ユダヤの人々は、預言者エリヤのこの話を知っているので、「大預言者が現れた」と言ったのです。「そしてこの話は、ユダヤ全土と周りの地方一帯に広まった」ということですので、後に、「人々は私のことを何と言っているか」とイエス様が弟子たちにお尋ねになった時、弟子たちはいろんなうわさのリストに「エリヤ」を挙げたのです。

ルカ9：18-20「イエスが一人で祈っておられた時、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は私のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは答えた。「洗礼者ヨハネだ」と言っています。ほかに、「エリヤだ」と言う人も、「だれか昔の預言者が生き返ったのだ」と言う人もいます。」エリヤの弟子のエリシャも同じようなわざを行ないましたが（列王記下4章）、これは、エリシャが確かにエリヤの霊を受け継いでいることの証しです。

II 主イエスがなされたのは言葉によるわざ

しかし、イエス様はエリヤ、エリシャとは違いました。エリヤもエリシャも主に祈ってわざを行ないましたが、イエスは祈らずに命令しただけです。主なる神に祈って願いがかなえられたのなら、祈った人のわざではなく、祈りに応えてくださった神のわざです。

イエスは天地創造の神と同じで、「光あれ。すると光があった」というように、言葉で命令されました。「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」「すると、死人は起き上がってものを言い始めた」のです。ですから、「イエスは主である」のです。

この話は小見出しの所に他の福音書の並行記事がありません。ルカ福音書だけにある話です。ルカはお医者さんらしく、いやしの記事は詳しいです。他に13：10-17「安息日に腰の曲がった婦人をいやす」、14：1-6「安息日に水腫の人をいやす」、17：11-19「重い皮

膚病を患っている十人の人をいやす」がルカ福音書だけにあるいやしのエピソードです。イエス様のような人がいたら医者には要らないと思ったことでしょう。

III 憐れみ深い主イエス

死人が起き上がったというこの話は、復活とは違います。生き返っただけですから、やがて年を取ったら死にます。私たちも一生の間に何度か死にかかって生き返ったような思いを体験します。しかし、やがて葬られる身です。ではこの記事は何を言おうとしているのでしょうか。他にも死人はたくさんいました。なぜ、この一人息子は生き返ったのでしょうか。なぜルカはこの出来事を書いたのでしょうか。それはイエス様の憐れみ深さを伝えるためです。

この一人息子はやもめの一人息子です。母一人子一人です。その葬儀に出くわした主イエスは、泣き続ける「**母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と**」言われました。一人息子を失った母親への憐れみ深さです。

これが旧約聖書のいやしの記事と共通しています。エリヤによるいやしもエリシャによるいやしも、主なる神の母親への憐れみ深さを語っているのです。それから、一人息子に対する憐れみ深さです。生き返ったら感謝して、この命はイエス様のものだと思うような生き方をしたでしょう。また、年を取っていく母親の世話もできるでしょう。

イエス様の憐れみ深さは、十字架の上で頂点に達しました。私たち全ての者を深く憐れんでくださいました。神に捨てられることの恐ろしさと悲しさを、誰よりも知っておられたからです。

若者の葬儀に居合わせた人々は、「**神はその民を心にかけてくださった**」と言いました。神に背いたイスラエルの結末は、バビロン捕囚という恐ろしさと悲しさに至ったことを知っていたからです。また「**大預言者が我々の間に現れた**」と言いました。バビロン捕囚以後、預言者が現れることは、絶えて久しかったからです。

5月は上福岡教会の伝道開始を記念して「伝道月間」と呼んでいます。神は私たちを心にかけてくださったのです。深く憐れんでくださったのです。北米キリスト改革派教会(CRC)の伝道所として始まりましたから、太平洋の向こう側が、日本の民を心にかけてくださいました。太平洋戦争の敵が私たちを心にかけてくださいました。

聖霊は、宣教師と協力伝道者を遣わしてくださいましたが、見えない大きな出来事として「**大預言者が我々の間に現れた**」のです。宣教師や伝道者が変わっても、この「**大預言者**」は変わりません。キリストは聖霊の息吹によって、ペンテコステ以来の伝道をなし続けておられます。